

現行のまちづくり基本方針の検証

現行まちづくり基本方針で示された施策について、関連各課に進捗状況等のチェックを依頼し状況を把握した(調査実施は令和3年3月)。

なお、各施策の取組内容に係る課(担当課)が、その達成状況について、

- ・実施済み：完了済みの施策
- ・実施中：施策着手済み
- ・未実施：未着手もしくは検討が必要なもの

の3段階で評価したもので、担当課が複数の課にまたがる場合は各課がそれぞれ評価を行った。

以下のまとめでは、担当課が複数の場合、各々を1施策としてカウントしている。その結果、現行まちづくり方針で示された32施策78項目に対して、199個の評価が行われた。

①分野別方針の進捗状況

全体では、約12%の項目が実施済み、約76%の項目が実施中となっている。

■実施済み又は実施中の主な項目

- ・新青梅街道沿道の土地区画整理事業
- ・日産自動車村山工場跡地内の公共公益施設地区における防災拠点としての機能強化
- ・高齢者向け賃貸住宅(シルバーピア)の整備
- ・小中学校への太陽光パネルの設置
- ・防犯灯のLED化
- ・狭山丘陵マップや市の魅力体験コースマップの作成

などが挙げられている。

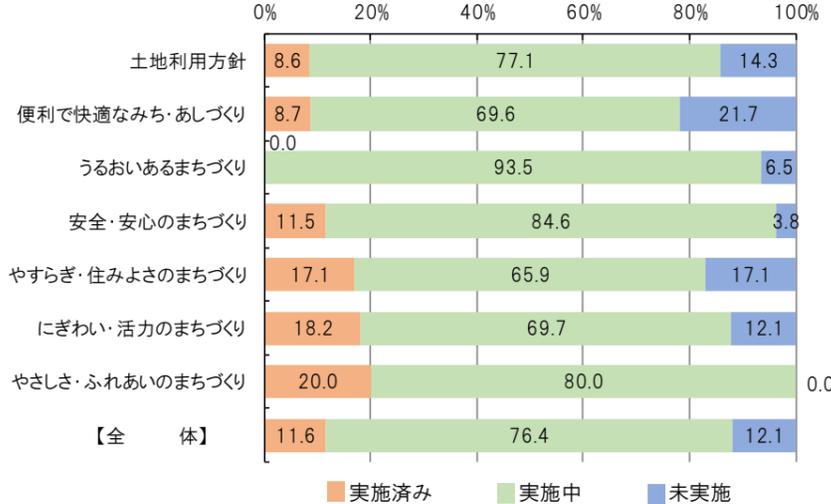
分野別にみると、「やさしさ・ふれあいのまちづくり」分野では、実施中(施策着手済み)が100%となっている。また、「うるおいのあるまちづくり」、「安全・安心のまちづくり」分野も実施中が90%以上と高い。

一方、「便利で快適なまち・あしづくり」、「やすらぎ・住みよさのまちづくり」分野では実施中の割合が低く、未実施が各々21.7%、17.1%となっている。

■未実施の項目

- ・都市計画道路や主要幹線道路における歩道幅員の確保
- ・自転車の安全の通行に向けた舗装等の改修
- ・無電柱化技術基準の制定
- ・都市計画公園・緑地の整備
- ・防犯に配慮した公共施設整備
- ・工業地域内のまちなみ形成における地区計画制度等の活用
- ・市民の要望を踏まえた生涯学習施設の充実

■分野別進捗状況



■分野別進捗状況の整理

施策		項目数	実施済み	実施中	未実施	合計
土地利用方針	住宅市街地	4	0	7	0	7
	沿道市街地	2	1	7	4	12
	商業市街地	1	0	2	0	2
	都市型市街地	3	1	6	1	8
	大規模農地	1	0	2	0	2
	公園・緑地	1	0	1	0	1
	公共広場	1	1	2	0	3
	【7施策】(構成比)	13	3(8.6)	27(77.1)	5(14.3)	35(100.0)
分野別方針	(1)まちの骨格となる道路づくり	4	1	5	2	8
	(2)地域の生活を支える道路づくり	2	0	2	0	2
	(3)歩きやすい歩道づくり	3	0	5	2	7
	(4)モノレールなど公共交通機関の充実	3	1	4	1	6
	便利で快適なまち・あしづくり【4施策】(構成比)	12	2(8.7)	16(69.6)	5(21.7)	23(100.0)
	(1)身近な自然環境の保全と活用	3	0	11	0	11
	(2)水とみどりを活かしたネットワークづくり	2	0	5	0	5
	(3)まちのうるおいとなる農地の保全と活用	3	0	6	0	6
	(4)コミュニティを育む場となる公園づくり	2	0	3	2	5
	(5)環境と共生した河川の整備と維持・管理	2	0	4	0	4
うるおいあるまちづくり【5施策】(構成比)	12	0(0.0)	29(93.5)	2(6.5)	37(100.0)	
分野別方針	(1)災害に強い市街地づくり	3	1	3	0	4
	(2)安全性を支える都市基盤づくり	2	1	4	0	5
	(3)災害に備えた対策と体制づくり	5	1	10	0	11
	(4)防犯に配慮したまちづくり	2	0	5	1	6
	安全・安心のまちづくり【4施策】(構成比)	12	3(11.5)	22(84.6)	1(3.8)	26(100.0)
	(1)市街地の特性に応じた住環境の形成	5	5	11	6	22
	(2)環境に配慮したまちづくり	3	2	5	0	7
	(3)生涯学習環境の充実	1	0	1	1	2
	(4)美しいまちなみへの誘導	4	0	10	0	10
	やすらぎ・住みよさのまちづくり【4施策】(構成比)	13	7(17.1)	27(65.9)	7(17.1)	41(100.0)
分野別方針	(1)商業・農業・工業の振興	3	2	6	2	10
	(2)日産自動車村山工場跡地の利用	1	0	3	0	3
	(3)中心市街地の形成	3	1	7	2	10
	(4)観光の振興とレクリエーションの充実	2	2	6	0	8
	(5)個性あるまちづくりへの支援	1	1	1	0	2
にぎわい・活力のまちづくり【5施策】(構成比)	10	6(18.2)	23(69.7)	4(12.1)	43(100.0)	
分野別方針	(1)人にやさしいバリアフリーの推進	2	0	3	0	3
	(2)高齢社会等に配慮した施設の整備	3	2	4	0	6
	(3)福祉のこころを育てるまちづくり	1	0	1	0	1
やさしさ・ふれあいのまちづくり【3施策】(構成比)	6	2(20)	8(80)	0(0.0)	10(100.0)	
全体	【32施策】(構成比)	78	23(11.6)	152(76.4)	24(12.1)	199(100.0)

※ 複数の課が担当している場合はそれぞれカウントした。

②進捗状況評価指数と住民評価指数の比較

進捗状況の評価を「実施済み：2、実施中：0、未実施：-2」として指数化したもの（進捗状況評価指数）と、武蔵村山市のまちづくりに関するアンケート調査 問6の各項目に対する回答結果を、「満足：2、やや満足：1、やや不満：-1、不満：-2」として指数化したもの（住民評価指数）とを比較することにより、行政による内部評価と住民による外部評価との差異を把握した。

なお、アンケート調査の項目を現行まちづくり基本方針の6分野に振り分け、分野別の住民評価指数を算出した。

進捗状況評価指数は、「便利で快適なまち・あしづくり」、「うるおいあるまちづくり」分野で「マイナス（未実施）」の評価となっている。一方、住民評価指数は「うるおいあるまちづくり」分野以外で「マイナス（不満）」の評価となっている。

「うるおいあるまちづくり」分野は行政側では未実施が多い評価にも関わらず、住民にとっては満足度が高い評価となっており、行政の施策展開とは別に、市の特性である自然環境の豊かさなどに対して市民の満足度が高いことが伺える。

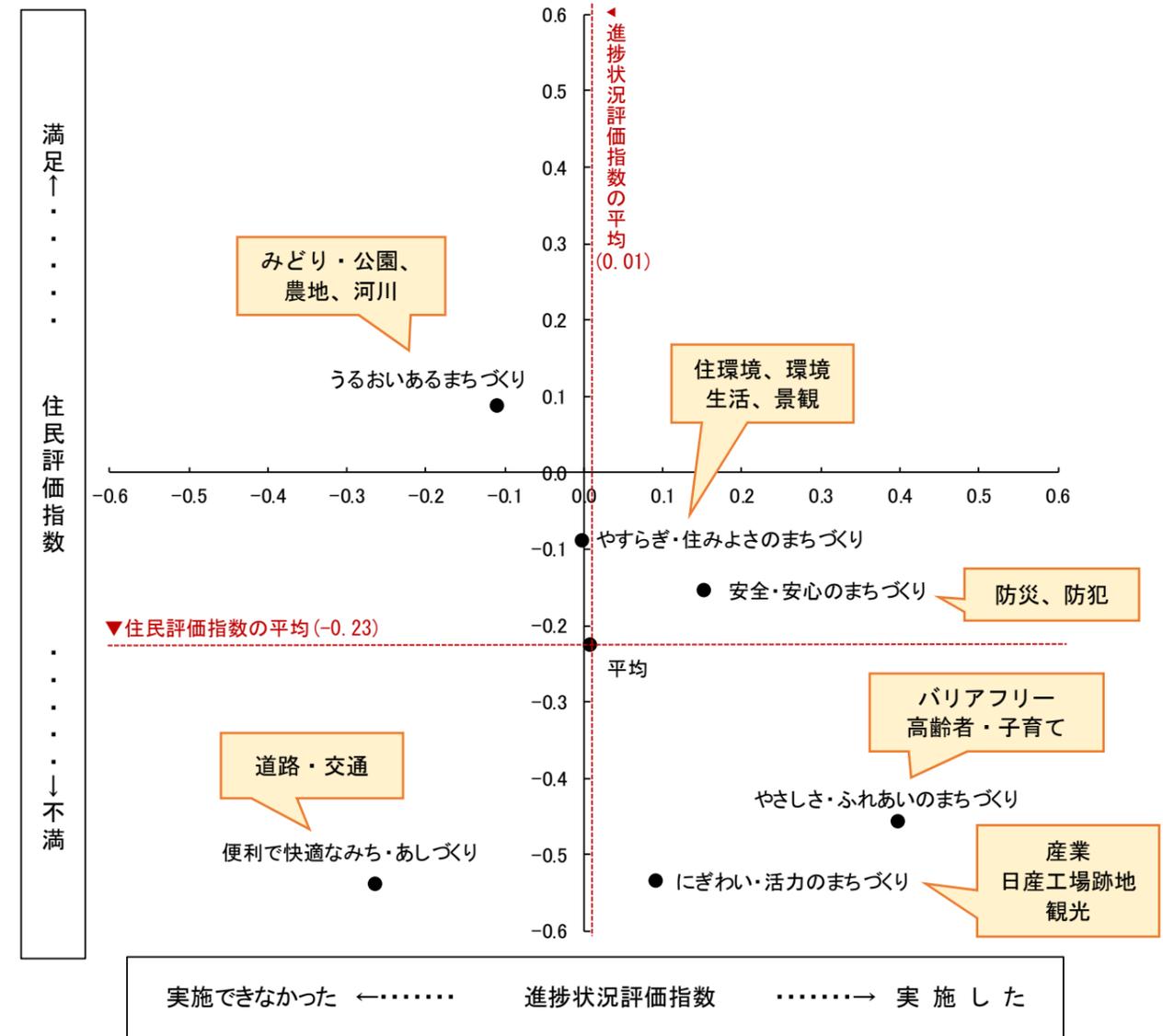
一方、「やさしさ・ふれあいのまちづくり」、「にぎわい・活力のあるまちづくり」、「安全・安心のまちづくり」分野は行政側では実施済みが多い評価であるが、住民にとっては満足度が低い評価となっており、事業の実績やその効果を積極的にPRするとともに住民が求めるニーズに応えられるような施策展開が求められる。

「便利で快適なまち・あしづくり」分野は、行政側・住民側ともに「マイナス（未実施・不満）」の評価となっており、施策の実施率が低いとともに住民の評価も低いため、今後はさらなる積極的な施策展開が必要と考えられる。

■評価指数の計算式

$$\begin{aligned} \text{進捗状況評価指数} &= \text{実施済み項目数} \times 2 + \text{実施中項目数} \times 0 + \text{未実施項目数} \times (-2) \\ \text{住民評価指数} &= \text{満足の回答者数} \times 2 + \text{やや満足の回答者数} \times 1 \\ &\quad + \text{やや不満の回答者数} \times (-1) + \text{不満の回答者数} \times (-2) \end{aligned}$$

■進捗状況評価指数と住民評価指数の分野別比較



分野別方針	進捗状況評価指数	住民評価指数
便利で快適なまち・あしづくり	-0.26	-0.54
うるおいあるまちづくり	-0.11	0.09
安全・安心のまちづくり	0.15	-0.15
やすらぎ・住みよさのまちづくり	0.00	-0.09
にぎわい・活力のまちづくり	0.09	-0.54
やさしさ・ふれあいのまちづくり	0.40	-0.46
平均	0.01	-0.23